



TITLE:

目次・研究費・プロジェクト活動
・平成26年度博士論文・平成26年
度修士論文・平成26年度卒業論文
・執筆者紹介・投稿規程・奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

目次・研究費・プロジェクト活動・平成26年度博士論文・平成26年度
修士論文・平成26年度卒業論文・執筆者紹介・投稿規程・奥付. 京都
大学大学院教育学研究科紀要 2015, 61

ISSUE DATE:

2015-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196922>

RIGHT:

京都大学大学院 教育学研究科紀要 第61号

目 次

論 文：

「居場所」概念と日本文化の関連について	中藤 信哉	1
教育研究者と学校現場の関わり方についての省察的検討.....	蒲生 諒太	11
－学校改革における「役割」に注目して－		
スクールカウンセラーの治療構造をめぐる体験の検討.....	神代 末人	25
－ M-GTA による SC の語りの分析－		
「自分」という日常臨床語について	時岡 良太	39
－類縁概念との比較を通じて－		
精神障害者に対して支援者側が抱く新たなイメージの形成にむけて.....	荒木 郁緒	53
遊びの神経症.....	皆本 麻実	65
－ユング派の神経症理論を手がかりに－		
心理臨床におけるアタッチメント理論の「現実性」の問題.....	田附 紘平	79
－精神分析との対比から－		
ケアにおける身体性.....	坂田 真穂	93
－看護ケアにおける身体性が患者と看護師に与える心理的影響－		
風景構成法における内界イメージの変容について.....	檜村 通子	107
－言語とイメージのポリフォニックな対話とイメージのゲシュタルト性から－		
アニメーションの巨大キャラクター表現にみる身体性についての一考察.....	篠田 亜美	121
－ガンダム、エヴァンゲリオン、進撃の巨人の比較を通して－		
箱庭療法における作り手の変容機序について.....	千葉友里香	135
－我が国の箱庭研究の概観と展望－		
リワークにおける集団精神療法の課題と分類概念の提案.....	新居みちる	149
－集団芸術療法の実践における考察から－		
昇華の価値論.....	堀川 聡司	163
女性が月経体験を言語化することの意義について.....	千葉 理未	175
老年期の女性性に関する一考察.....	西尾ゆう子	189
遊び場面における自閉症児の空間性と象徴化.....	山口 昂一	203
－三次元性の確立を巡って－		
森有礼文政期の「倫理」教科教科書『布氏道德学』の考察.....	林 子博	215
－日本弘道会誌上の批判に着目して－		
乳児期における音声模倣のメカニズムとその発達過程.....	今福 理博	229
幼児期における他者の知識状態に応じたルール違反への反応とルールの共有	熊木 悠人	243
－社会的ふり遊びの観察から－		
幼児期における心の理論・実行機能とロールテイキングの関連.....	古見 文一	257
情動知能と情動コンピテンスの概念上の差異に関する考察.....	野崎 優樹	271

トルコ共和国百年祭（2023 年）のメディア・イベント …………… トパチョール・ハサン	285
－明治百年祭（1968 年）との比較分析から－	
大学におけるネットワーク組織の類型とその機能…………… 柴 恭史	299
－教員のネットワークとそれを支える組織構造に注目して－	
研究型大学における高大接続の可能性…………… 郭 暁博	313
－アメリカの AP（Advanced Placement）プログラムに注目して－	
香港就学前教育における統制バウチャー制によるガバナンスの適正化 …… 龔 雨軒	327
－公平性と効率性の観点から－	
ドバイにおける外国高等教育機関の展開に関する一考察…………… 中島 悠介	341
－インドからの分校の運営戦略を手がかりとして－	
バングラデシュの就学前教育における政府－NGO の協働構想 …………… 門松 愛	355
－実践計画と国家基準に着目して－	
ベトナムの大学入学選抜制度における権限配分の論理…………… 関口 洋平	369
－体制移行期の制度改革を中心に－	
台湾における大学教育観の変容…………… 廖 于晴	383
－空中大学における学位授与の論争を手掛かりに－	
インドにおける大学教員像の変化…………… 渡辺 雅幸	397
－政府による大学教員の最低基準に着目して－	
ベトナムにおけるインクルーシブ教育の受容…………… 白銀 研五	411
－ホアニャップ教育の展開に焦点をあてて－	

資 料：

研究費……………	425
プロジェクト活動	
教育実践コラボレーション・センター……………	429
博士論文……………	434
修士論文……………	436
卒業論文……………	438
執筆者一覧……………	441
京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程……………	442

Relationship between the concept of “Ibasho” and Japanese culture	NAKAFUJI Shinya	1
A Reflexive Consideration of Educational Researcher’s Relation to the School: Graduate Student Participating in School Reform	GAMO Ryota	11
How the School Counselors experience the Therapeutic Structure in the school : Analysis of Interviews by the M-GTA	KUMASHIRO Sueto	25
On the Daily Word “Jibun (Self),” Which Is Often Used in the Practice of Clinical Psychology: Comparison with Similar Concepts	TOKIOKA Ryota	39
Shaping New Images of Psychotic in Terms of Support Persons	ARAKI Ikuo	53
Neurosis of Play: Considering Jungians’ Theory of Neurosis	MINAMOTO Asami	65
The Problem of “Actuality / Reality” of Attachment Theory in Clinical Psychology: In Comparison with Psychoanalysis	TAZUKE Kohei	79
The Corporeality in Caring: The Psychological Effects of Corporeality in Nursing Care on Patients and Nurses	SAKATA Maho	93
The Transformation of Inner Imagery in Landscape Montage Technique: The Polyphonic Dialogue between Language and Image, and the Gestalt of Image	KASHIMURA Michiko	107
Study of Body Sense on Expression of Giant Characters in Animations: Through Comparison between Gundam, Evangelion and Shingeki no Kyojin	SHINODA Ami	121
Mechanism of the Psychological Changes in Sandplay Therapy: An Overview and Prospects of Sandplay Research in Japan	CHIBA Yurika	135
Problems in Group Psychotherapy for returning to work and the Concept of Classification: Case Study of Group Art Therapy	ARAI Michiru	149
On the Value of Sublimation	HORIKAWA Satoshi	163
The importance of verbalizing menstruation for women	CHIBA Satomi	175

Femininity of the Elderly	NISHIO Yuko	189
Spatiality and Symbolization of Children with Autism in Play: On Establishment of Three-Dimensionality	YAMAGUCHI Koichi	203
The Ethics Textbook <i>Fushi Dōtokugaku</i> during the Tenure of Mori Arinori: Examined through the Critical Reaction to it in <i>Nihon Kōdō Sōki</i>	LIN Zibo	215
Mechanisms and Developmental Process of Vocal Imitation in Infancy	IMAFUKU Masahiro	229
Young Children's Responses to Violations of Rules and Rule Sharing Depending on Other's Knowledge: Observation of Social Pretend Play	KUMAKI Yuto	243
Does Theory of Mind or Executive Function Skills Predict Preschoolers' Role-taking?	FURUMI Fumikazu	257
Conceptual Distinction between Emotional Intelligence and Emotional Competence	NOZAKI Yuki	271
Turkish Republic Centennial (2023) as a Media Event: A Comparative Analysis with the Meiji Centennial (1968)	TOPACOGU HASAN	285
The Patterns of Network in Higher Education: Focusing on Faculty Network and Supporting Organization	SHIBA Takafumi	299
Potential of Articulation between Upper Secondary Schools and Universities in Research Universities: Focus on the Advanced Placement Program in the USA	GUO Xiaobo	313
Governance Adjustment in Control-Regulation Hong Kong Voucher System: Fairness & Efficiency	GONG Yuxuan	327
A Study of Indian International Branch Campuses in Dubai	NAKAJIMA Yusuke	341
GO-NGO Collaboration Conception of Pre-Primary Education in Bangladesh: Focusing on Implementation Plan and National Standards	KADOMATSU Ai	355
Governance of Entrance Exams to Universities in Vietnam	SEKIGUCHI Yohei	369

Changes in Ideas on University Education in Taiwan in light of the Open University Degree Conferral Controversy LIAO Yuching	383
Changes in Requirements for Faculty Members in India: Focus on UGC Regulations on the Minimum Qualifications WATANABE Masayuki	397
Adapting Inclusive Education in Vietnam: Focusing on the Dissemination of Hòa Nhập Education SHIROGANE Kengo	411

研 究 費

研 究 費

年月日	課 題 名	氏 名
2014.4.1	新学術領域研究（研究領域提案型） 周産期からの身体感覚と社会的認知の発達の関連性の解明に基づく障害理解	明和 政子
2014.4.1	新学術領域研究（研究領域提案型） 思春期における自己制御の発達と学校・社会適応との関連に関する行動遺伝学的研究	高橋 雄介
2014.4.1	新学術領域研究（研究領域提案型） 物語における時間情報に基づく視点取得メカニズム	米田 英継
2014.4.1	基盤研究（A） 21 世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成	楠見 孝
2014.4.1	基盤研究（A） 学校を中心とする教育空間における力動的秩序形成をめぐる多次元的研究	桑原 知子
2014.4.1	基盤研究（B） 学習方略の自発的利用促進メカニズムの解明と学校教育への展開	マナロ エマニエル
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 ヒトの養育行動における快情動の役割とその進化的基盤	明和 政子
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 青年期メディアとしての雑誌における教育的機能に関する研究	佐藤 卓己
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 「失われた 10 年」以後の教育機会とライフコースに関するパネル調査研究	岩井 八郎
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 パフォーマンス評価を活かした教師の力量向上プログラムの開発	西岡加名恵
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 「新しい公共」枠組み下のソーシャル・ファイナンスを通じた教育資源調達手法の研究	高見 茂
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 日英の女性医療専門職の生涯キャリアと養成・支援に関する総合的研究	渡邊 洋子
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 アジアの「体制移行国」における高等教育制度の変容に関する比較研究	南部 広孝
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 戦後日本の指導者の「ハビトゥス」形成と「界」の構造に関する実証的研究	稲垣 恭子
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 戦後東アジア諸地域における教育の比較史的分析—冷戦と植民地主義に着目して—	駒込 武
2014.4.1	基盤研究（B）一部基金 21 世紀型コンピテンシー育成のためのカリキュラムと評価の開発	矢野 智司
2014.4.1	基盤研究（C） オールタナティブ教育における「稽古」の思想と「宗教性・精神性」の教育人間学的解明	西平 直

2014.4.1	基盤研究 (C) ＜レジリエントな個＞の育成とアメリカ実践哲学：哲学と教育のクロスカレント研究	齋藤 直子
2014.4.1	基盤研究 (C) 教師の熟達とキャリア形成に関する日独比較研究 ―教師力としての教育的タクトを軸に	鈴木 晶子
2014.4.1	基盤研究 (C) 統合的な図書館・図書館史研究の構築	川崎 良孝
2014.4.1	基盤研究 (C) タイミング制御が支える音韻的作動記憶と長期音韻知識の相互作用	齊藤 智
2014.4.1	基盤研究 (C) 思考力・判断力・表現力育成のための長期的ループリックの開発	田中 耕治
2014.4.1	挑戦的萌芽研究 自閉症スペクトラム障害をもつ青年および児童に対する日常生活スキル支援の研究	米田 英嗣
2014.4.1	挑戦的萌芽研究 専門職教育者の IPE（異業種連携教育）基盤型研修プログラムの実践開発研究	渡邊 洋子
2014.4.1	挑戦的萌芽研究 近代日本における流言効果のメディア史的研究	佐藤 卓己
2014.4.1	挑戦的萌芽研究 批判的評価能力と高次の心の理論および認知コストとの関連	マナロ エマニュエル
2014.4.1	挑戦的萌芽研究 戦後日本におけるアメリカナイゼーションと女性知識人の社会学的研究	稲垣 恭子
2014.4.1	若手研究 (B) 高等学校における教育資源配分の効率性および多面的な教育資源調達手法の検討	江上 直樹
2014.4.1	若手研究 (B) ナショナリズムと「文明的」自己像形成をめぐる現象の比較・歴史社会学的考察	竹内 里欧
2014.4.1	若手研究 (B) パーソナリティ特性の発達と健康の変化を統合的に理解するための縦断調査研究	高橋 雄介
2014.4.1	若手研究 (B) 高次の学力を育成する「教科する」授業の開発研究	石井 英真
2014.4.1	若手研究 (B) 小学校外国語活動において言語への関心を高めるための多言語カードの開発と効果の検証	黒田真由美
2014.4.1	特別研究員奨励費 マインドリーディングのメカニズムとロールプレイの効果に関する発達の研究	古見 文一

研 究 費

2014.4.1	特別研究員奨励費 抑うつ昇華理論による理解とその心理臨床的治療の探究	堀川 聡司
2014.4.1	特別研究員奨励費 オランダにおける教育の自由と質保証に関する研究－学校評価に着目して－	奥村 好美
2014.4.1	特別研究員奨励費 動機づけられる対象の違いが目標達成時の認知制御の負担に及ぼす影響	後藤 崇志
2014.4.1	特別研究員奨励費 空間認知における俯瞰視点と自己視点：空間情報の学習と想起	杉本 匡史
2014.4.1	特別研究員奨励費 現代アメリカ合衆国におけるリテラシー教育に関する研究－C. スノーの所論を中心に－	山本はるか
2014.4.1	特別研究員奨励費 新生児期からの自己認識と他者理解に関する発達科学研究	今福 理博
2014.4.1	特別研究員奨励費 情動知能が社会的排斥経験後の報復の抑制に及ぼす影響	野崎 優樹
2014.4.1	特別研究員奨励費 共感が援助を導く機構の認知神経科学的検討	日道 俊之
2014.4.1	特別研究員奨励費 乳児期における視－聴－触覚情報処理と言語獲得との関連についての実験心理学的検討	田中友香理
2014.4.1	特別研究員奨励費 アラブ首長国連邦のトランスナショナル高等教育による社会的インパクト	中島 悠介
2014.4.1	特別研究員奨励費 移行期ベトナムにおける高等教育民営化の実験	関口 洋平
2014.4.1	特別研究員奨励費 バングラデシュにおける乳幼児のケアと教育（E C C E）－地域的視点からの再考－	門松 愛
2014.4.1	特別研究員奨励費 近代中国における生活作文教育の研究	鄭 谷心
2014.4.1	特別研究員奨励費 戦前・戦後の郷土教育に関する歴史的考察－生活綴方・社会科との接点に着目して－	須永 哲思
2014.4.1	特別研究員奨励費 日本統治下台湾の「植民地的開発」をめぐる研究－植民地権力と台湾人／在台日本人	清水 美里
2014.4.1	特別研究員奨励費 実行機能向上に関わる認知科学的検討－デフォルトモードネットワーク調節の観点から－	梶村 昇吾
2014.4.1	特別研究員奨励費 図書館の倫理的価値「知る自由」からみた公立図書館現代史の構築	福井 佑介

2014.4.1	特別研究員奨励費 日本社会・文化の個人主義化に伴う不適応問題の解明	荻原 祐二
2014.4.1	特別研究員奨励費 自発的啼泣の初期発達－音響的、生理学的解析および心理的指標からの検討	新屋 裕太
2014.4.1	特別研究員奨励費 現代ミドルクラス移民に関する社会学的研究：アジアで就労する日本人の事例	松谷実のり
2014.4.1	外国人特別研究員奨励費 作動記憶における処理、モダリティ、表象領域の関係を探る：二重課題法を用いて	SOEMER, Alexsander

教育実践コラボレーション・センター

「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究を目指して」

〈活動概要〉

平成 19 年度から教育学研究科では特別教育研究経費（教育改革）による「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、教育実践コラボレーション・センターとして、さまざまな活動をおこなってきている。

教育実践コラボレーション・センターの目的は、現場から持ち込まれた具体的な問題に対し、異分野融合チームを組織するなどして、教育学研究科としての組織的な対応をコーディネートすることにある。その際、子どもをめぐる教育問題の中心を「生命性を深めること」（心の問題）と「有能性を高めること」（学力問題）という 2 つの軸として取り出し、そのトータルな育成の方法を探る。また、教育研究におけるマクロ的アプローチ（教育制度学や教育社会学や比較教育学）とミクロ的アプローチ（認知心理学や心理臨床学や教育哲学）を統合しつつ研究を進めている。

平成 25 年度からは科学研究費補助金（基盤研究 A）が採択され、「学校を中心とする教育空間における力動的秩序形成をめぐる多次元的研究」を課題とし、活動している。現在、校内暴力、不登校、学級崩壊、いじめなどの報道が毎日のようにみられる。そしてこれらは、学校教育の秩序を揺るがす問題だと定義され、それへの対応として、秩序から逸脱した人や状態をどのように秩序の中に回収するのか、乱れた秩序をどのように再び平衡に戻すのかということが考えられてきた。しかしながら現在、この前提が崩れはじめ、学校のみならず、地域・社会、家庭においても、これまでの秩序にもどせばいい、という発想ではうまくいかなくなっているのが現状ではないだろうか？グローバル化や電子メディア空間の影響もあって、既存の秩序への再編というストラテジーがもはや無効になっていると言っても過言ではないように思う。そこで、今回の研究課題においては、学校、地域・社会、家庭、電子空間といった複数の空間での人々の相互作用の在り方を解明し、秩序のゆらぎがどのようなものであるかを明らかにするとともに、その中で、どのような秩序が動的に、新たに、立ち上がってくるのかということを探求しようと考えている。

本年度は、①学校改善プロジェクト、②不適応対応プロジェクト、③家族研究プロジェクト、④グローバル化対応プロジェクト、⑤交流空間プロジェクトの 5 つのプロジェクトチームを編成し、専門を異にする研究者がともに、解明→関わり→新たなデザインの提示というアクションリサーチを行いながら、コラボレーションユニットで全体の議論を重ねてきた。具体的な取り組みの主なものは、以下のとおりである。

〈講演会・シンポジウム・ワークショップ〉(2014年4月1日～2015年3月31日)

第5回 知的コラボの会

「ブータンで誰に会ったかー継続調査・共同研究・一人の青年」

- 日時：2014年4月24日(木) 13:00～15:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：西平直(京都大学)

第6回 知的コラボの会

『「生命性」が息づく「管理」とは～旭山動物園の挑発～』

- 日時：2014年5月29日(木) 15:00～17:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：桑原知子(京都大学)、西平直(京都大学)、山名淳(京都大学)

第7回 知的コラボの会

「学生参加による大学教育改善の可能性と課題」

- 日時：2014年6月26日(木) 13:00～15:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：服部憲児(京都大学)

ワークショップ「野童いなか塾 夏の自然観察会」

- 日時：2014年6月28日(土) 13:00～16:30
- 場所：旧野殿童仙房小学校・三郷田観察ルート
- 主催：野殿童仙房生涯学習推進委員会、教育実践コラボレーション・センター
- 観察指導：NPO法人自然観察指導員京都連絡会

第8回 知的コラボの会

『現代日本の学力向上政策―「スタンダードに基づく教育改革」を問い直す視座―』

- 日時：2014年7月17日(木) 10:00～12:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：石井英真(京都大学)

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修

- 日時：2014年8月19日（火）、20日（水）
- 会場：人間・環境学研究科棟 地下1階 大講義室（大講義室 B23）
- 主催：京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM、教育実践コラボレーション・センター
- 講師：鈴木晶子（京都大学）、山名淳（京都大学）、服部憲児（京都大学）、松下姫歌（京都大学）、西岡加名恵（京都大学）、石井英真（京都大学）

第9回 知的コラボの会

「カリキュラムをどうつくるか」

- 日時：2014年9月25日（木）13:00～15:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：西岡加名恵（京都大学）

第10回 知的コラボの会

『「言語への目覚め」活動を通じた学校空間での異文化間教育』

- 日時：2014年10月9日（木）15:00～17:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：大山万容（京都大学）

E.FORUM 教育研究セミナー I

「大学教育改革を考える——教養とは何か——」

- 日時：2014年10月17日（金）14:45～17:00
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM、教育実践コラボレーション・センター
- 司会：山名淳（京都大学）
- 講師：加藤守通（上智大学）、松浦良充（慶應義塾大学）

第11回 知的コラボの会

「日本の心理療法の歴史的形成過程」

- 日時：2014年11月13日（木）15時30分～17時30分
- 会場：京都大学教育学部本館1階 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：大山泰宏（京都大学）

教育学部祭参加企画展示「童仙房体験コーナー」

- 日時：2014年11月22日（土）・23日（日）10：00～16：30
- 場所：京都大学教育学部 本館右手
- 主催：野殿童仙房生涯学習推進委員会、教育実践コラボレーション・センター
- 体験コーナー運営：ふれあい土曜ひろば（童仙房区ボランティア団体）

教育学部祭企画「京都大学は本当に自由か～教育学部での学びを問い直す～」

- 日時：2014年 11月24日（月）13：00～15：00
- 場所：教育学部本館 第1会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター

北京師範大学・京都大学院生学術交流2014

- 日時：2014年12月3日（水）～6日（土）
- 場所：京都大学総合研究2号館
- 主催：教育実践コラボレーション・センター、中国・北京師範大学教育学部

E.FORUM 教育研究セミナーⅡ

「高大におけるカリキュラム改革を考える ——探究力育成の視点から——」

- 日時：2014年12月23日（火・祝）13:30～17:00
- 会場：京都大学文学部新館2階 3講
- 主催：京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM、教育実践コラボレーション・センター
- 講師：寺崎昌男（東京大学）、松下佳代（京都大学）、稲垣恭子（京都大学）、松井孝夫（群馬県立中央中等教育学校）、中村征樹（大阪大学）
- 開会挨拶：北野正雄（京都大学）
閉会挨拶：子安増生（京都大学）
- 司会：駒込武（京都大学）、服部憲児（京都大学）

第9回 風と雲の広場 『「ローカルな知」と向きあうこと』

- 日時：2014年2月21日（土）14：00～17：00
- 会場：旧野殿童仙房小学校（京都府相楽郡南山城村童仙房）
- 主催：野殿童仙房生涯学習推進委員会、教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：前平泰志教授（京都大学）

第 12 回 知的コラボの会

「フィールドから生涯学習を考える」

- 日時：2014 年 3 月 9 日（月）15：00～17：00
- 会場：京都大学教育学部本館 1 階 第 1 会議室
- 主催：教育実践コラボレーション・センター
- 話題提供：前平泰志（京都大学）

E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修「第 10 回実践交流会」/「教師力アップ研修」

- 日時：2014 年 3 月 28 日（土） 第 1 部 9:30～14:00 / 第 2 部 14:30～17:00
- 会場：京都大学吉田南総合館東棟 共東 12
- 主催：京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM、教育実践コラボレーション・センター
- 講師：伊勢田哲治（京都大学）、山本吉次（金沢大学）、西岡加名恵（京都大学）
- 司会：石井英真（京都大学）

平成 26 年度 学位（博士）授与者及び題目一覧

課程博士 ※平成 27 年 3 月授与まで

氏 名	論 文 題 目
畑 野 快	大学生の主体的な学修態度の形成に関する実証的研究
白戸(松永)智子	近代日本における英字新聞のメディア論的研究 －ジャパン・タイムスを中心に
白 戸 健一郎	満州電信電話株式会社のメディア史的研究
奥 井 遼	わざの臨床教育学 －淡路人形座における人形遣いの稽古および興行に関する現象学的記述
古 川 裕 之	風景構成法に関する心理臨床学的研究 －やり取りと作品変化の検討を中心に－
李 芝 映	近世儒学における＜日用＞の思想化 －日常の営みと学問をめぐる言説空間の生成と展開－
小山内 秀 和	物語世界への没入体験 －測定ツールの開発と読解における役割－
長谷川 千 紘	心理臨床場面における物語の位相 －パラダイムとしての「物語」の再検討
野 口 素 子	表情表出による情動調整の特性に関する実証的検討
日 下 紀 子	心理療法における「不在」に関する研究 －セラピストのこころの機能と治療的相互交流をめぐる精神分析的理解－
細 尾 萌 子	フランスの中等教育における学力評価論の展開 －教養・エスプリの揺らぎとコンピテンシー概念の台頭－
荻 原 祐 二	日本社会・文化の個人主義化に伴う不適応問題の解明
後 藤 崇 志	自律性に着目した自己統制概念の再考
古 見 文 一	ロールプレイがマインドリーディングに及ぼす効果の発達心理学的検討
奥 村 好 美	現代オランダにおける学校評価の展開と模索
福 山 寛 志	乳児と大人の相互作用における共有経験の理解に関する発達研究
杉 本 匡 史	空間認知におけるサーベイベースペクティブとルートベースペクティブ ：空間情報の学習と想起
田 中 哲 平	読みにおける情報の再構成過程にワーキングメモリが果たす役割
猿 山 隆 子	「書く－読む－話す－聴く」ことをめぐるおとなの自己教育の場としての集団的実践 －鶴見和子の生活記録運動論の再検討－
福 井 佑 介	図書館の倫理的価値「知る自由」の歴史的展開
堀 川 聡 司	精神分析における昇華理論の探求 －天才論から喪の作業へ－

平成26年度博士論文

論文博士 ※平成 27 年 3 月授与まで

氏 名	論 文 題 目
増 田 仁	「高度経済成長期」における家政学的知と実践に関する社会学的分析 －家事労働者形成過程の再検討－
片 畑 真由美	主体機能の顕現に関する心理臨床学的研究 －イメージ体験における身体感覚の視点から－
山 川 裕 樹	心理臨床学における方法論としての事例研究法 －事例からの視点生成に着目して－
太 田 拓 紀	近代日本の中等教員養成における私学の機能に関する歴史社会学的研究
辻 河 昌 登	世話役の世代間伝達に関する心理臨床学的研究

修士論文題目一覧

氏 名	論 文 題 目
川 南 恵	俳優の学びの様相 ～俳優教育の果たす役割～
小 菅 里 子	ニュージーランドの自律的経営学校への政府の関与 －法定介入の制度と実態に着目して－
白 砂 優 希	バイアス盲点に及ぼす諸要因の検討
高 矢 和 馬	地理教育における「社会的論争問題学習」の意義と課題
丁 愛 美	内容重視型教授法（Content-based Instruction）が大学生の 英語学習態度に与える影響に関する実践的研究
中 川 拓 夢	医療系専門学校に対する公財政資金配分の現状と可能性 －大阪の専門学校を事例とした専門学校に対する公的資金補助の必要性の検討－
中 尾 友 香	現代美術作家にみる作品制作観の変容 －制作上の「こだわり」に注目して－
渡 川 智 子	美術館における成人の鑑賞経験 －「断絶」がもたらすもの－
池 田 法 子	近代日本における成人聾啞者の自己教育活動 －日本聾啞協会の『聾啞界』を手がかりに－
市 村 賢士郎	学習目標にかかわる動機づけ促進過程 －目標設定理論に基づく検討－
井 上 慧 真	若年層における成人期への移行の困難とその支援に 関する社会学的研究
大 貫 守	ジョセフ・クレイチェックの「プロジェクトにもとづく科学」に関する一考察 －IQWST プロジェクトに焦点をあわせて－
岡 隆之介	比喩表現の産出に及ぼす諸要因の検討
栗 山 弥 世	人種カテゴリー知覚に関する認知科学的検討
志 方 洋 介	人と向き合うということ －M. ハイデガーの“Sorge”概念を手掛かりに教育を問う－
田 中 正 之	学生の学びと成長に影響を及ぼす友人関係とキャリア意識
種 村 文 孝	イギリスの法律専門職育成におけるプロボノの意味と可能性
永 田 和 寛	1950年代の都市近郊農村における生活綴方運動 －野名龍二のサークル的思考と実践－
廣 井 隆 志	言語は概念処理にオンラインで影響を及ぼすのか？ カテゴリ知覚と言語干渉課題による検証
福 嶋 祐 貴	R. E. スレイヴィンの協同学習論の検討 －学校改革プログラム Success for All への発展に焦点を合わせて－

平成26年度修士論文

星 野 俊 樹	Problem-based Learning の導入支援のための汎用的ツールが 大学教員の授業設計と実践に及ぼす効果に関する実証的研究
枡 田 恵	幼児期における表情の理解と表現の発達の検討
舩 本 佳菜江	儀礼を通した文化伝承と学び －熊本県上天草市松島町の盆供養に関する調査を手掛かりに－
宮 坂 ま み	AD/HD の認知特性および支援者の理解のバイアスに関する研究
周 静	日本語学習者によるピア・ラーニングの有効性 －中国の大学での「精読」科目における実験授業を通じて－
全 京 和	脆弱性を持つ政策領域に対するソフトなガバナンスの適用 － EU の教育・訓練政策における「Open Method of Coordination」に焦点をあわせて－
蒲 云 菲	高等教育における内部質保証システムに関する研究 －認証評価報告書の記述に基づいて－
浅 井 健 介	翻訳としての〈反省 - 批評〉 －初期ベンヤミンの言語と形式の思想を手がかりに－
岩 井 有 香	学校空間のあわいで子どもと「出あう」とは
江 浦 美 奈	対人関係の観点から見た風景構成法における抵抗感とコミットメント
岡 部 由 菜	箱庭制作過程におけるアイテムとの出会い
國 弘 なつみ	青年期のロールシャッハ反応から見る健康さに関する研究
粉 川 尚 枝	夢の構造分析を用いた心理療法過程で生じる夢の経過に関する一考察 －日本で報告された事例の分析を通して－
西 郷 南海子	美的経験を通じた子どもの成長 －ジョン・デューイの『経験としての芸術』を手がかりに－
鈴木 優 佳	他職種との協働現場における臨床心理士の「葛藤」と「一貫性」に関する一考察
橋 本 真友里	語りにおける沈黙の内的体験と性質について －語り手の報告と性格特性からの検討－
松 岡 貴 子	母親が育児において他者を頼ることについて
木 村 大 樹	ASD 型の被害的認知に関する研究 －場面想定法と TAT を用いて－

卒業論文題目一覧

氏 名	論 文 題 目
石 黒 翔	親密な他者をイメージすることが文章理解に与える影響 －小学生高学年を対象として－
植 山 兼 次	マクニールによるグローバル・ヒストリーについての一考察 －世界史教育の内容構成への示唆－
加 藤 夕 貴	荒木繁の古典教育論についての検討
菅 琴 音	指示詞の理解と他者視点取得能力の発達の関連 －幼児と成人の比較－
木 村 稔	概念的理解を育成する数学教育 －藤村宣之による研究に着目して－
小 杉 望	モンテッソーリ教育における「自己発展」の意義と課題
平 岡 和 樹	大村はまによる「単元学習」の理論と実践 －「学習記録」を用いた指導を中心に－
森 岡 優季子	通常学級における発達障害児への支援方法のあり方
山 川 朋 恵	英語科における「フォーカス・オン・フォーム」アプローチの意義と課題 －コミュニケーション能力を育成する授業の探究－
山 本 賢	教養における自己の複数性をめぐる一考察 －キルケゴールの「自己」および「関係」の概念を手がかりに
横 山 栞 奈	G.H. ミードにおける自我と経験
奥 原 絹 華	教育評価論における自己評価論の展開
安 田 将	知識の「ランバネイン（把握）」 －プラトン『テアイテトス』
齊 藤 尊 孔	環境変動に対する予測と運動制御との関連 －大縄跳びの事例から
鶴 見 友佳理	1920～30年代の婦人雑誌における瘦身広告の分析 －「健康」という価値と「美しさ」という価値の交わりに着目して－
南 川 太 志	練習と稽古の間 －指導者の比喩表現に着目して－
村 上 桂 子	ジマーマンによる自己調整学習の理論に関する検討
安 藤 篤 俊	武藤徹の数学科教育論に関する一考察
竹 中 綿 絵	奈良県における人権教育の実践 －副教材『なかま』の内容分析－
大 場 有希子	幼児の中間領域に関する発達の検討 －スキグルを手がかりとして－
柏 本 拓 哉	社会的地位の推測における社会的繋がりの影響
桑 原 聡 子	大学生の親に対する心理的距離と自己の捉え方との関連
高 橋 綾 乃	衝動性に関するフィードバックが自己制御課題の成績に及ぼす影響

高 村 瞳 子	大学における昼食時の不安についての研究 ～公的自己意識と一人でいられる能力との関連から～
辻 えりか	大学生における「自分のなかの家族性」
中 谷 美奈子	妬み感情を抱く個人の集団における行動について
檜 原 あかり	感情状態の記憶と実際の経験との差異 －教育実習体験の想起を用いての検討－
平 岡 大 樹	ストレッサーが乳児の泣き声に対する認知・行動反応に与える影響
不 破 早央里	制作された箱庭イメージと自己イメージの関係性と 箱庭制作体験の諸様相
本 多 謙 介	青年期における空虚感の様相 －質問紙と TAT を用いて－
松 岡 利 規	青年期の自己感に関する研究 －自己感尺度の開発と TAT からみた自己感の様相－
水 野 和	小学生における自己価値の随伴性に関する検討
武 田 和 也	箱庭づくりにおける砂と作り手の内的体験との関係
野 田 実 希	病を通した「働く私」の自己意識の変容過程 －休職した職業人の語りに基づく質的研究－
平 田 真 之	青年期におけるアタッチメントと探索行動との関連について －刺激画を用いての試みから－
岩 元 彩 絵	大学生活を経て変化するストレスコーピング方略の差異性
中 島 稜 平	青年期における理想自己と現実自己の差異と適応感との関係
松 野 翔 平	樹木画と物語創作課題を用いて自己洞察を促す試み －バウムテストの臨床的応用にむけて－
青 江 早希子	地域振興を担う文化事業の可能性
伊 藤 すみれ	「清貧の思想」の変遷とその社会的機能 －人生論の分析を中心に－
小 川 拓 馬	事務処理特例制度を活用した県費負担教職員の人事権の委譲について －大阪府豊能地区を参考にして－
黒 澤 茂	我が国における金融教育の発展に向けて
阪 田 祥	教員の多忙とその改善策に関する考察
白 子 千 誉	パブリック・リレーションズの大学への適用について －近畿大学の事例を通して－
杉 山 天 心	住民の地域認識と「まちづくり」活動 －旧京北町を事例として－
巽 利 紗	日本の高等教育機関における ICT 教育の現状と課題 － MOOC に焦点を当てて－
塚 本 友 樹	大学による地域貢献活動に関する考察 －プロジェクト継続の条件に焦点をあてて－
戸 村 翔 一	大学の新たな寄付募集モデル －クラウドファンディングを用いた資金獲得－

中 村 成 児	アメリカ・イギリスの学校における金融経済教育への考察
根 岸 拓 也	ケニアにおける初等教育の現状と問題点
長谷川 諒 太	日韓両国における大学入試制度に関する考察
福 崎 泰 規	英国ナショナル・カリキュラム歴史科成立過程の議論に関する考察
藤 沢 祐 樹	部活動における外部指導者活用に関する考察
松 浦 円 和	就職活動の時期変更が学生にもたらす影響 －今後の就職活動の可能性－
松 本 茉祐子	我が国の留学生政策の現状と課題 －対外言語政策におけるドイツとの比較から－
村 上 由 莉	日本における読書教育活動の可能性 －「読書へのアニメーション」を学ぶおとなに注目して－
阿 部 翔 吾	生涯学習的視点から見た「なわとび」の可能性
川 口 雄 大	地域日本語学習支援の現状と課題 －外郭団体の事業に注目して－
城 戸 恭 平	シンガポールの教育政策における技術教育院の役割と変遷
佐 藤 優 樹	日本と韓国の高等学校における自国史教科書の比較
澤 井 純	自己啓発の形としての学生団体
柴 田 和 季	演奏系音楽大学生の進路形成に関する一考察
戸 崎 安由美	生涯学習からみた動物園 －展示方法の変化と来園者ニーズ
肥 爪 聡 子	グローバル人材育成方法 －「東南アジア青年の船」事業を手がかりとして－
藤 川 ともみ	ニュージーランドの多文化教育をめぐる政策に関する考察 －二文化主義と多文化主義の葛藤に焦点をあてて－
松 井 貴 宏	ソーシャル・ビジネスにおける人材育成 －日本とシンガポールの事例から－
的 場 駿	人口減少社会におけるイクメン政策に関する考察
椎 名 健 人	漱石をめぐる闘争 －「木曜会」共同体にみるホモソーシャルな関係性－
斉 藤 隼 平	日中韓における総合学習に関する比較考察

執筆者紹介

執筆者紹介（執筆順）

中 藤 信 哉	臨床心理実践学講座 特定助教
蒲 生 諒 太	臨床教育学講座 博士後期課程 3 回生
神 代 末 人	心理臨床学講座 博士後期課程 3 回生
時 岡 良 太	心理臨床学講座 博士後期課程 3 回生
荒 木 郁 緒	心理臨床学講座 博士後期課程 2 回生
皆 本 麻 実	心理臨床学講座 博士後期課程 2 回生
田 附 紘 平	心理臨床学講座 博士後期課程 1 回生
坂 田 真 穂	臨床実践指導学講座 博士後期課程 3 回生
樫 村 通 子	臨床実践指導学講座 博士後期課程 1 回生
篠 田 亜 美	心理臨床学講座 博士後期課程 1 回生
千 葉 友里香	心理臨床学講座 博士後期課程 1 回生
新 居 みちる	臨床実践指導学講座 博士後期課程 2 回生
堀 川 聡 司	臨床心理実践学講座 博士後期課程 3 回生
千 葉 理 未	臨床心理実践学講座 博士後期課程 2 回生
西 尾 ゆう子	臨床心理実践学講座 博士後期課程 2 回生
山 口 昂 一	臨床心理実践学講座 博士後期課程 1 回生
林 子 博	教育学講座 博士後期課程 3 回生
今 福 理 博	日本学術振興会特別研究員 教育方法学講座 博士後期課程 2 回生
熊 木 悠 人	教育方法学講座 博士後期課程 2 回生
古 見 文 一	日本学術振興会特別研究員 教育認知心理学講座 博士後期課程 3 回生
野 崎 優 樹	日本学術振興会特別研究員 教育認知心理学講座 博士後期課程 2 回生
TOPACOGU HASAN	生涯教育学講座 博士後期課程 1 回生
柴 恭 史	比較教育政策学講座 博士後期課程 2 回生
郭 暁 博	比較教育政策学講座 博士後期課程 1 回生
龔 雨 軒	比較教育政策学講座 博士後期課程 1 回生
中 島 悠 介	日本学術振興会特別研究員 比較教育政策学講座 博士後期課程 2 回生
門 松 愛	日本学術振興会特別研究員 比較教育政策学講座 博士後期課程 1 回生
関 口 洋 平	日本学術振興会特別研究員 比較教育政策学講座 博士後期課程 3 回生
廖 于 晴	比較教育政策学講座 博士後期課程 2 回生
渡 辺 雅 幸	比較教育政策学講座 博士後期課程 2 回生
白 銀 研 五	比較教育政策学講座 博士後期課程 1 回生

※投稿論文数は 39 件、うち 31 件の論文を採択した。

京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程

(1) 投稿資格

単著論文の場合、執筆者は、本研究科教員および博士後期課程 1 年次以上の大学院生とし、院生については少なくとも指導教員 1 名の推薦のある者に限る。

上記の資格をもつ者が年度途中で身分を変更した場合にも、少なくとも前期に在籍すれば、投稿資格をもつ。ただし、身分変更を速やかに届けて、変更後にも紀要編集委員会と連絡が取れる状態にあることを条件とする。以上の条件を満たさない場合には、投稿資格を失う。

共著論文の場合、本研究科教員が第 1 著者となり、学内外の研究者（修士課程 1 年次以上の大学院学生を含む）を共著者とするものに限る。

(2) 内容

原稿の内容は未発表の学術論文とする。

(3) 使用言語

原則として自由。ただし、外国人留学生は日本語で投稿すること。

(4) 原稿枚数

A4 用紙で 1 枚当たり「42 字×38 行」とし、教員および共著論文は 25 枚（本文 24 枚＋アブストラクト 1 枚）、院生論文は 13 枚（本文 12 枚＋アブストラクト 1 枚）を上限とします。外国語論文の枚数もこれに準じます。

(5) 投稿要領

投稿に際しては、執筆注意事項指定の書式に従い、原稿の他にコピーを 2 部添え、締切日までに指定された提出先に提出のこと。なお電子メールで論文の電子データを合わせて提出すること。

また、英文タイトルおよび 200 語程度の英文アブストラクトをつけること。

(6) 投稿・問い合わせ先

紀要編集委員会。

(7) 原稿の掲載の可否

原稿の掲載の可否については、別に定める審査基準に基づいて紀要編集委員会が審査・決定する。

(8) 著作権

本紀要に掲載された論文の著作権は本研究科に属する。

編集委員 杉 本 均 山 名 淳

松 下 姫 歌 中 池 竜 一

編集事務 福 島 由里子

平成27年 3 月25日 印刷

平成27年 3 月31日 発行

発行人 京 都 大 学 大 学 院 教 育 学 研 究 科
代 表 者 子 安 増 生

印刷所 株 式 会 社 北 斗 プ リ ン ト 社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
TEL (075) 791-6125

発行所 京 都 大 学 大 学 院 教 育 学 研 究 科
京都市左京区吉田本町
